

# 新日本婦人の会高知市支部 平和の文化祭開く

胡摩崎ゆう子

去る2月28日「ソーレ」3階を借り切って新婦人高知市支部が平和の文化祭を開催しました。私は新婦人支部委員として企画の段階から参加しました。新婦人は暮らしや平和の活動とともに、絵手紙やクラフトバッグづくり、草木染等各班で文化的な小組活動をしています。日舞、フラダンスもありなかなか幅広い活動をしています。その小組活動の発表を文化祭を計画しました。折角なので小組の発表だけでなく、平和の文化祭として

## 新婦人 平和の文化祭



る。そのれへの保革を超えた怒りが、名護市長選、名護市議選、県議補選、知事選、衆院選における新基地建設反対の「オール沖縄」の5連勝につながっている。沖縄の民意を無視する政府を沖縄県民は信頼していない。また本土の全国紙テレビ局は沖縄問題をほとんど取り上げない。沖縄県はアメリカに直接訴える。沖縄タイムス、琉球新報はワシントンに特派員を置いており、沖縄で起きていることを直接訴え、米政府の反応を記事にしている。アメリカとの外交が必要、そして翁長知事は相当の覚悟をして「等納々」と語られる比嘉さんのお話に230人が聴き入っていました。

## 全退教四国ブロック交流集会

10月28・29日

高知市で開催

多くの方の参加を

期待しています

「明治の琉球」の琉球、処分の戦後の沖縄差別、そして今野古への回りの新基地建設、琉球の心が傷つけられてい

「パイカジ」の演舞で、そして元沖縄タイムス記者でジャーナリストの比嘉康文さんの「今沖縄に何が起きているか、オール沖縄の力を高知へ」と題した講演が始まりました。比嘉さんは、沖縄人のチムグクル（沖縄の心）について語られました。

講演の後は昼食休憩、朝早くから30人の会員さんが準備された手作りのチラシ寿司、おかずセット、デザート等が参加者全員に振る舞われ堪能しました。午後は沖縄三線の演奏を皮切りに、フラダンス、人形劇、マジック、朗読等々舞台発表があり、また並行して開かれていた研修室1・3では沖縄ヘリパット反対闘争の「標的の村」や高知空襲の戦跡調査の展示、また会員さんの絵手紙、絵画、書、クラフトバッグ、手作りひな人形、パッチワーク等々の展示も見事でした。とても多彩な文化祭を楽しみ、オール沖縄から学んだ一日となりました。

# 初月農園だより 安納芋

島本 聡

高退協の家庭菜園懇談会に、突然現れたオードリーのような貴婦人、英語ではないが僕が聞き響きをもつ幡多弁を流暢に使い、無農薬有機栽培の家庭菜園を愉快地楽しそうに話される。そんな主婦が、話題にしたさつま芋、もの新種？を1個そっと手渡しして下さる。これが私と安納芋さんとのはじめの出会いです。

わざわ中村（四万十市）からお越し頂いたもの、電子レンジでチンでもったいな、じっくり時間をかけてオーブンで焼きあげる。中身は、薄黄色のねっとりとしたもので、まるでクリームのような食感と甘みをもっている。感激もなくった5月の連休、混雑する日曜市を、酔っ払いが屋台をはしごするよう、に安納芋のつるを求めて回る。土佐紅や紅あずまのつるはどこでもいるが、目的の、安納芋のつるさんはどこにおりません。ならば火曜市、木曜市、金曜市、と訪ねるが、すべて不在、最後に前川の種苗店にて、特別注文となる。1本45円、土佐紅などの2倍強の値段だ。梅雨のはじまる少し前、種苗店で手に入れた50本のつるを、かまぼこ状にした70cm幅の畦に植える。つるは垂直に指せば大きな芋が出来るが、水平に植えると数多くの芋がつく。私は中間の斜めに差しみる。もちろん畦には雑草よけの黒ビニールマルチは欠かせない。梅雨がはじまり、50本の苗つるは、節々から新芽が萌生し、すくすくと育ち3ヶ月もすると2m以上の長さとなり地面を覆いつくす。ツルの節々からはおおきくなった芋が、いわゆる芋する式についてくるはずである。10月の半ば、期待をもって鎌をいれる。あれ芋が小さいし少ない。おかしに掘っても掘っても孫の拳ぐらいの芋ばかり、同じように植えた土佐紅や紅あずまは、十分大きく

なっていて、親豚に群がる子豚のようにぶらさがっている。安納芋は、山羊の子ぐらいの藪、安納芋さんは結構気むずかしいのか。翌年、せめて大人の拳ぐらには育てようと、終戦後の食糧難のころ、自分の頭ぐらいの芋をつくっていたのを思い出しながら鶏糞をいれる。植え方も、多産系の船底植え（両端を地面から出す）にしてみる。6月、7月、8月、9月、ツルは昨年とは比べものにならないほど猛々しく育つ。10月期待を込めて鎌を入れる。節々からは、たくさん根が張り出している。あれれ、今年も先に膨らみがない、10数本の根からは、ところどころ落花生のようなものがついてるが、芋らしいものが存在しないのだ。掘る時期がはやいのか？11月の霜が降り頃まで膨らむのをまったが、ついに丸みをおびた子豚のような芋はつかない。50本の苗から採れたのは孫の拳数個だけ、これぞつるのほけである。残念、断念。今は人参芋から干し芋をつくるのに専念。

## 読書クラブ

小澤 幸次郎

クラブ紹介  
二ヶ月に一回、ムトー荘201号室で、休むことなく続けられている読書会は、本年2月28日で第146回を数えました。会の進め方は、まず前回に決めたテキスト（一人ひとり読んできた）についての感想や学んだこと、自分の意見などを出し合い、話し合い、共有することです。内容は、テキストの理解から今の情勢、自分の体験など多様さにあっという間に2時間が過ぎてしまします。次回のテキストを出し合い決めて会を終えています。いくつかの様子を列記します。4月例会には5名が参加。課題図書は、「植民地朝鮮と日本」でした。1910年の併合から解放までの日本の植民地政策と韓国民の闘いなどを学びました。（4面に続く）